

展示案内 — vol. 780

2025 3・4・5

東京国立博物館 ニュース

TOKYO NATIONAL MUSEUM NEWS



3月11日(火)より「博物館でお花見を」、開催!

今号のイチ推し!
根付 高円宮コレクション



「総合文化展」の名称が「東博コレクション展」となります

当館ではこれまで、所蔵品・寄託品の展示を「総合文化展」と称してきましたが、4月1日(火)より、名称が「東博コレクション展」となります。約12万件の所蔵品と多数の寄託品は、世界有数の日本・東洋美術コレクションです。博物館に対する社会的関心も高まるなか、私たちはより一層コレクションと向きあい、育んでいくことが大切であると考え、その想いをこの名称に込めました。

今後、東博コレクションの魅力をさらに発信していくために、調査研究や保存修理のための体制強化、展示解説の質の向上、観覧環境の改善などに取り組んでまいります。これからの「東博コレクション展」にご期待ください。

博物館でお花見を

上野に春がやってきました。本館では、桜をモチーフにした日本美術の名品を各展示室でご覧いただけます。また、庭園では約10種類の桜が次々と開花します。作品鑑賞とあわせて、ぜひ庭園の散策もお楽しみください。

3月11日(火)～4月6日(日)



観桜図屏風

住吉具慶筆
江戸時代・17世紀
西脇健治氏寄贈

展示期間:～4月6日(日)

「伊勢物語」の一場面。別荘で桜を讃え和歌を詠む惟喬親王と在原業平一行を描いています

7室

10室

東都三十六景・吉原仲之町

歌川国貞(三代豊国)、二代歌川広重合作
江戸時代・元治元年(1864)

展示期間:3月11日(火)～4月13日(日)

満開の桜のなかを歩む遊女が描かれています。吉原仲之町は春にだけ桜が植えられ、夜桜見物でにぎわいました



8室

色絵桜樹園透鉢

仁阿弥道八作
江戸時代・19世紀

展示期間:3月11日(火)～5月18日(日)

鉢の内外に白泥と赤彩で満開の桜樹を表し、巧みに配された透しで、桜の空間をつくり出しています



18室

七宝桜花散燭台

明治時代・19世紀
橋本貞志氏寄贈

展示期間:～4月20日(日)

西洋式の燭台で銅製のスタンドには七宝の技法で2色の桜の文様を華やかに散らしています



桜イベント

東博句会「花見で一句」

「博物館でお花見を」の期間中、桜をテーマにした俳句を募集します。桜咲く庭園や、桜をモチーフにした作品をテーマに、一句詠んでみませんか? 応募方法など、詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。

お花見ヨガ in 法隆寺宝物館

日時:3月27日(木)

(1)14時00分～14時30分

(2)15時00分～15時30分(受付開始は各回15分前を予定)

場所:法隆寺宝物館エントランス

※先着20名、当日受付、参加無料(ただし、当日の入館料が必要)

※詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。

庭園マップを更新しました

庭園マップ



2025年度 国宝室(本館2室)の展示スケジュール

国宝室は、絵画・書跡の名品をゆったりとした空間でご鑑賞いただける展示室です。2025年度は、国宝 古今和歌集(元永本) 上帖(平安時代・12世紀 三井高氏寄贈 展示期間:4月15日(火)～5月11日(日))や、国宝 納涼図屏風(久隅守景 江戸時代・17世紀 展示期間:7月23日(水)～8月17日(日))など、当館所蔵または寄託の国宝から選りすぐった作品を展示します。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

国宝室の展示スケジュール



特集

親と子のギャラリー 博物館でゾウめぐり

本館特別2室 4月22日(火)～6月1日(日)

毎年春に行う東京都恩賜上野動物園と国立科学博物館との連携企画「上野の山で動物めぐり」の関連展示を今年も開催します。18回目となる今回は、子どもから大人まで人気の「ゾウ」がテーマです。ゾウが日本に初めてやってきたのは室町時代と伝わります。しかし、それ以前から普賢菩薩の乗りものなど、主に信仰の世界でよく知られた動物で、数多くの美術工芸品に表されてきました。今回の展示では、そうしたさまざまな時代、素材の作品をご紹介しますとともに、動物園、科学博物館からの実物標本(象牙、歯、尾の毛)も展示します。

(横山梓)

迫真性に富んだ正確な描写

鳥獣鷹象写生図巻のうち象図
狩野古信筆 江戸時代・享保14年(1729)

子ゾウを観察して描かれた写生画。
本物さながらで画家の技量がうかがえます



(部分)

異国趣味を反映した図柄

染付洗象図大皿
伊万里 江戸時代・18～19世紀 平野耕輔氏寄贈
中国では明から清時代に、ゾウを洗うという年中行事がありました



特集

キリシタン関係遺品の 保存と研究

本館14室 3月25日(火)～5月18日(日)

16世紀以降、近世の日本でキリスト教を信仰したキリシタンにまつわる遺品のうち、長崎奉行所の宗門蔵で保管されていた関連資料は信仰史をしるうえで欠かせない資料です。

近年の研究成果をご覧ください本特集では、真鍮製の踏絵の科学分析とあわせて、ロザリオや旧蔵者の名前などを記した付札の保存処置と保管環境の改善についてご紹介します。当時の信仰に想いをはせつつ、キリシタン関係遺品に対する当館の取り組みをご覧ください。

(西木政統)

禁制政策が生んだ2つの踏絵

禁制政策を推進した長崎奉行所によって、信仰の対象である大型メダルを板に嵌めた板踏絵が考案され、さらに耐久性を高めるために真鍮製の踏絵が制作されました



◎板踏絵 キリスト像(ピエタ)
長崎奉行所旧蔵品 江戸時代・17世紀



◎踏絵 キリスト像(ピエタ)
長崎奉行所旧蔵品 江戸時代・17世紀

特集

日本の伝統模様「虫」

本館14室
5月20日(火)～7月6日(日)

かたひら うすちやあさじらんはるりゆうすいもよう
帷子 薄茶麻地蘭瑩流水模様
江戸時代・19世紀



新版画

一世界を魅了する
木版画一

平成館企画展示室
4月15日(火)～6月15日(日)



東京十二題 五月雨ふる山王
川瀬巴水筆 大正8年(1919)
展示期間:4月15日(火)～5月11日(日)

東洋館

稀有な造形に備わった驚くべき機能性

○角杯台

韓国 三国時代(新羅)・5～6世紀
小倉コレクション保存会寄贈

～5月25日(日)

10室 朝鮮の陶磁

本作品は底が尖った形状の角杯を安定させて置くための台です。角杯とは獣角をくり抜いてつくった器、またはこれを象った土器や金属器などのことをいいます。この台は角杯の先端を上部前方に並ぶ丸い穴に通し(↑①)、胴部を反対側にあるY字状の股(↓②)で支えて置くことができます。本作品の特徴は複数の角杯を置くことができる点と幾何学文様の線刻や突起などで独特な装飾が施される点にあります。これは新羅地域でのみ確認される意匠でありながら、数例しかない希少な作例です。みればみるほどユニークな新羅土器の造形をぜひ展示室でお楽しみください。



(玉城真紀子)

文人たちに愛された春の前ぶれ

◎雪梅図軸

呉太素筆 中国 元時代・14世紀 新潟・貞観園保存会蔵

3月18日(火)～4月20日(日)

8室 中国の絵画 梅花

東洋の知識人たちは、まだ冬の内に、ほかの花々に先駆けて蕾を開かせる梅の高潔さを愛してきました。元時代は、さまざまな文人画家が梅の美しさをどのように表現するか工夫を凝らした時代にあたります。呉太素もそのひとりであり、特に枝の描写にこだわった梅の描き方のハウツー本『松斎梅譜』も出版しています。このたびその代表作である本作品が、公益財団法人朝日新聞文化財団の助成を受けた2年間の修理後、初公開されることになりました。梅の絵画の歴史を物語る、明から近代の作品とともに楽しみみてください。(植松瑞希)



本館

故実に学んだ高貴なる装い

古今雛

末吉石舟作 江戸時代・文政10年(1827)
山本米子氏寄贈

～3月23日(日)

14室 特集 おひなさまと日本の人形

古今雛とは、江戸時代後期に江戸で生まれ、流行した雛人形です。山車人形の制作技術を応用したもので、艶やかな目はガラスによるものです。宮廷装束を模倣しつつも、豪華な冠などには町方の好みが見え反映されています。本作品は、古今雛を大成した二代・原舟月の弟子である、末吉石舟の作と伝えられます。切れ長の瞳とすっきりとした鼻筋が特徴的な端正な顔立ち、袖先の調和のとれた色の重なりあいが、気品あふれる美しさを醸し出しています。細部まで丁寧に制作された古今雛の名品を、ぜひ展示室でご覧ください。(沼沢ゆかり)



満を持して堂々登場、迫力の仁王像

金剛力士立像

平安時代・12世紀

4月8日(火)よりリニューアルオープン

11室 彫刻

金剛力士は仁王ともいい、お寺の入口の門に立って敷地内を守る仏教の守護神です。この仁王像は高さ約3メートルあり、しなやかな身のこなしの優雅な阿形と、肩をいからせ力のこもった武骨な吽形が好対照です。両像とも大ぶりの頭やがっしりとした体つきは迫力があり、平安時代後期の特色が表れています。



吽形



阿形

2022年に所蔵品となった本作品を東博コレクション展(平常展)では初めて展示します。本館11室は新しいケースや展示台、照明が導入され、作品の特徴をより際立たせる展示環境となります。リニューアルした展示室でお客を迎える仁王像の迫力や魅力をぜひご覧ください。

(増田政史)

みずみずしさが伝わる黒田清輝初期の油絵

楊樹

黒田清輝筆 明治22年(1889)

4月8日(火)～6月29日(日)

黒田記念室



ヤナギ科の植物でも、枝を上へ伸ばすポプラなどは「楊」、日本でよくみる枝垂れタイプは「柳」として区別されます。フランス郊外の自然を好んだ黒田は、同地の「楊」をししばしば描きました。本作品は黒田が本格的に油彩画を描きはじめてから1年ほどで描かれたもので、ややぎこちない筆運びもみられますが、枝を透かす木漏れ日や、日向と日陰の対比に注意が払われ、みずみずしい陽光をとらえようとする意欲が伝わってきます。(吉田暁子)

鳳凰が羽ばたく華やかな容器

水滴

中国・唐時代・または奈良時代・8世紀

通年展示

第5室 金工



聖徳太子が用いた水滴(硯で墨を擦る際に使う水を入れる容器)と伝えられる、金銅製の蓋つきの容器です。3脚つきで、脚のあいだの各面に、羽ばたく鳳凰を蹴彫りの技法で線刻しています。鳳凰の周囲には宝相華唐草文が表され、大変華やかです。鳳凰の図像は正倉院宝物に類例があり、奈良時代あるいは8世紀の中国・唐で製作されたと考えられます。鳳凰の姿は3面それぞれに異なっており、製作者の工夫のあとが感じられます。(清水健)

全形を留める稀少な例

石棒

長野県駒ヶ根市赤穂(美女ヶ森)出土
縄文時代(中期)・前3000～前2000年
小町谷八玉彦氏寄贈

通年展示

考古展示室



当館が所蔵する縄文時代の石棒のなかでは最大の101cmを誇ります。今から約130年前に当館の職員であった若林勝邦が長野県伊那地方で行った遺跡や出土遺物の調査をきっかけに、地元から寄贈を受けたものです。

一般的に石棒は破損しているものが多く、完全な形を残すものは極めて稀です。本作品の傘形の頭部や基部には敲打による欠け、胴部には火を受けた痕跡が残り、大形石棒を用いた当時の儀礼の様子をうかがうことができます。(品川欣也)

特別展「江戸☆大奥」

7月19日(土)～9月21日(日)

將軍やその妻、大奥に仕える女中たちが生きた「大奥」の世界を紹介します。楊州周延筆の錦絵シリーズ『千代田の大奥』のほか、初公開を含む大奥ゆかりの衣装や道具、歴史資料など多彩な作品とともに、春日局をはじめ歴代の御台所や側室の生涯にも迫りながら、大奥の隠された歴史を解き明かしていきます。

『千代田の大奥』より 『千代田大奥 御花見』

楊州周延筆 明治27年(1894)
※会期中、場面替えあり



◎刺繍掛袱紗 棒色繻子地枝垂桜と手鞠 花熨斗と茶釜模様

徳川綱吉が瑞春院(お伝の方)に下賜
江戸時代・17～18世紀 奈良・興福院蔵
※会期中、展示替えあり

特別展「蔦屋重三郎 コンテンツビジネスの風雲児」

4月22日(火)～6月15日(日)

歌麿や写楽の浮世絵をプロデュースし、文芸のジャンルでも数々のベストセラーを生み出した「蔦重」こと蔦屋重三郎(1750～97)。彼は出版業者として、時流をつかみ、人々が楽しむものを追い求め続けました。本展では、出版文化に新風をもたらした時代の風雲児、蔦重の多彩な活動を、約250作品を通してご覧いただきます。



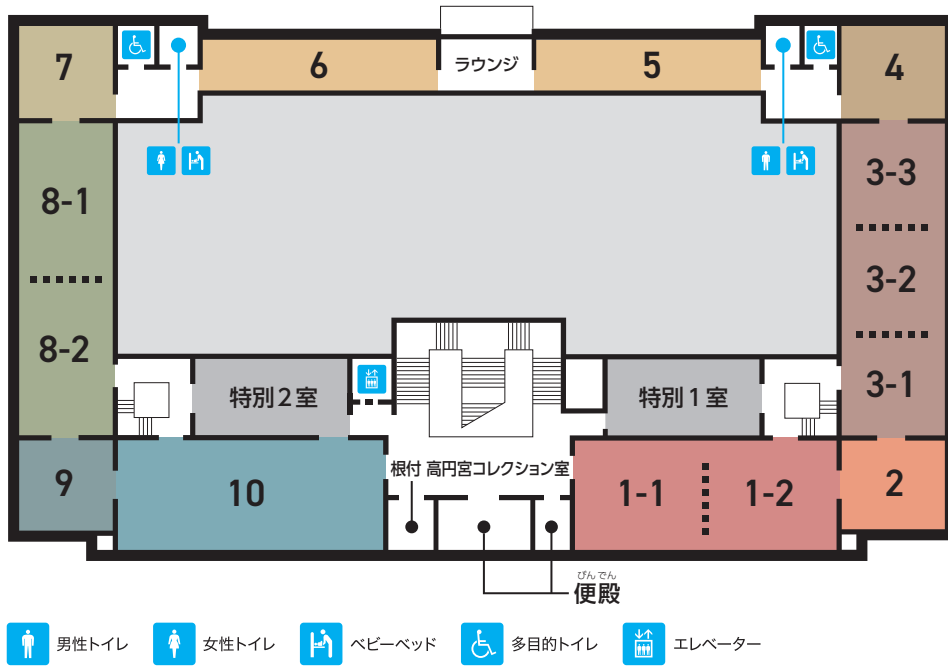
◎「三代目大谷鬼次の江戸兵衛」

東洲斎写楽筆 江戸時代・寛政6年(1794)
展示期間: 4月22日(火)～5月18日(日)



「姿見七人化粧」

喜多川歌麿筆
江戸時代・寛政4～5年(1792～93) 頃
展示期間: 5月20日(火)～6月15日(日)



本館めぐり

日本美術の流れ

2階



2 国宝室

3/18(火)-4/13(日)

●花下遊楽図屏風

狩野長信筆
江戸時代・17世紀

お花見と聞けばはしゃいでしまう。そんなあなたにおすすめの国宝絵画



(部分)

4/15(火)-5/11(日)

●古今和歌集(元永本) 上帖

平安時代・12世紀
三井高氏寄贈



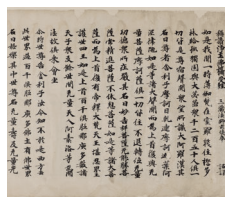
1-2 仏教の興隆

—飛鳥・奈良

3/11(火)-4/13(日)

称讃浄土仏摂受経

奈良時代・8世紀



(部分)

4/15(火)-9/28(日)

海獣葡萄鏡

飛鳥～奈良時代・7～8世紀
奈良県五條市西久留野町出土

小型の海獣葡萄鏡で、唐鏡を型取りして製作されたと考えられます



1-1 日本美術のあけぼの

—縄文・弥生・古墳

-6/29(日)

◎注口土器

縄文時代(後期)・前2000～前1000年
青森県十和田市米田字清瀬出土



-6/29(日)

埴輪 大刀を佩く男子

古墳時代・6世紀
茨城県つくば市下横場字塚原出土

下総型とよばれる人物埴輪で、刀を2本佩く珍しい事例です



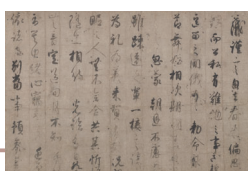
3-2 宮廷の美術

—平安～室町

4/8(火)-5/25(日)

◎書状

藤原行成筆
平安時代・寛仁4年(1020)



-4/6(日)

●雀の発心

室町時代～安土桃山時代・16世紀
美田悦子氏寄贈



(部分)

二足歩行で踊念仏する雀。彼をめぐると壮大な物語はぜひ会場で確かめてください

3-1 仏教の美術

—平安～室町

-4/6(日)

◎一字金輪像

鎌倉時代・13世紀

美しい描線と明快な色彩がみどころ。密教絵画の優品です



3-3 禅と水墨画

—鎌倉～室町

-4/6(日)

◎四季花鳥図屏風

伝雪舟等楊筆
室町時代・15世紀

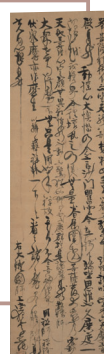
モチーフが複雑にからみあう画面構成は雪舟の花鳥画の特徴です



(右隻)

大燈国師上堂語

一休宗純筆
室町時代・15世紀
中島洋一氏寄贈



4/8(火)-5/25(日)

●十六羅漢像

(第二尊者)

平安時代・11世紀

5・6 武士の装い

—平安～江戸

3/11(火)-6/1(日)

●黒韋包金桐紋糸巻太刀

室町時代・15世紀

戦国武將上杉家の伝来品で、実用的かつ豪華な造形がみどころです



3/4(火)-5/25(日)

仁王胴具足

安土桃山時代・16世紀



7 屏風と襖絵

—安土桃山～江戸

-4/6(日)

●大追物図屏風

筆者不詳 江戸時代・18世紀



(右隻)

4/8(火)-5/25(日)

朝顔狗子図杉戸

円山応挙筆

江戸時代・天明4年(1784)

むくむくとした可愛い子犬たち。
もとは愛知・明眼院(現在の応挙館)の杉戸絵でした



(部分)

8-2 書画の展開

—安土桃山～江戸

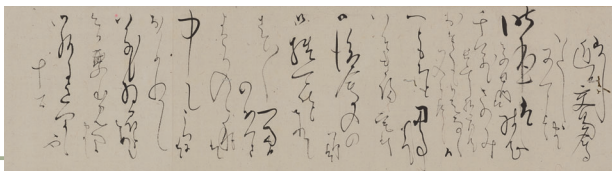
4/8(火)-5/25(日)

書状巻

酒井抱一筆

江戸時代・18～19世紀

絵筆で書いたのでしょうか。絵師の日常を伝える書状です



(部分)

-4/6(日)

●勿来関図

狩野(伊川院)栄信筆

江戸時代・19世紀

平安時代の武將、源義家による和歌に取材した栄信の大作です



10 浮世絵と衣装

—江戸

浮世絵

3/11(火)-4/13(日)

●桜花に小禽

歌川広重筆

江戸時代・19世紀



4/15(火)-5/11(日)

●衝立の上下

喜多川歌麿筆

江戸時代・18世紀



夏の羽織越しに若衆を見上げる娘。ふたりの恋模様を想像させます

衣装

-4/20(日)

小袖

淡黄縮緬地縞島取梅枝模様

江戸時代・18世紀

扇面や雪輪のなかに風景模様を染めた優品です。縞模様の友禅染も珍しいものです



4/22(火)-6/22(日)

小袖

白綾子地流水松藤模様

江戸時代・17～18世紀

鮮やかな藍で流水を絞り染にし、松にかかる藤花を豪華に刺繍した元禄期の小袖です



9 能と歌舞伎

-4/20(日)

長絹 紫地扇牡丹菊模様

江戸時代・18世紀

女性の役を演じる際の上衣です。舞を舞うと大きな袖が美しく翻ります



4/22(火)-6/22(日)

胡飲酒襦袢

白地窠文花唐草模様唐織

江戸時代・19世紀

唐楽の一人舞。胡国の王が酒に酔った様子を表現した走舞で用いられる特別な衣装です





13-1 金工

-3/23(日)

橘樹双鶴鏡
室町時代・14世紀



3/25(火)-6/15(日)

◎金銅蓮華唐草文金剛盤
平安時代・12世紀



密教法具を置く台です。盤面には美しい蓮華唐草が表されています

12 漆工

3/18(火)-6/1(日)

楓蔦時絵沈箱
室町時代・16世紀

最小限のモチーフで、『伊勢物語』をほのかに想起させる趣向です



◎蔦細道時絵文台、
蔦細道・角田川時絵硯箱
田付長兵衛作 江戸時代・17世紀



11 彫刻

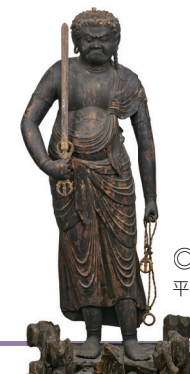
4/8(火)より
リニューアルオープン

4/8(火)-7/6(日)

◎菩薩立像

鎌倉時代・13世紀

整った顔立ちやしなやかな立ち姿に、洗練された美意識が感じられます



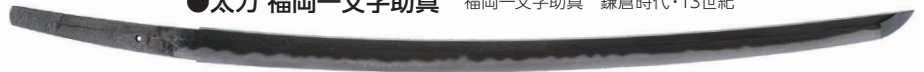
◎不動明王立像

平安時代・11世紀

13-2 刀剣

3/18(火)-6/8(日)

●太刀 福岡一文字助真 福岡一文字助真 鎌倉時代・13世紀



●太刀 福岡一文字吉房 福岡一文字吉房 鎌倉時代・13世紀



豪壮華麗な作風で名高い福岡一文字派の名工・助真の傑作。紀州徳川家に伝来しました

13-3 陶磁

-6/1(日)

◎黄釉牡丹唐草文広口壺
瀬戸 鎌倉時代・14世紀

中国の龍泉窯青磁を写したのですが、本歌とはまた違ったおおらかな文様表現がみどころです



3/11(火)-6/1(日)

色絵蝶牡丹文大皿
伊万里 江戸時代・17世紀



16 アイヌと琉球 アイヌの祈りと琉球の工芸



3/18(火)-6/8(日)

玉ハベル(首飾)

奄美大島
第二尚氏時代・19世紀
大和良子氏寄贈

4/22(火)-6/8(日)

ウミガメ頭骨

北海道アイヌ
19世紀

アイヌの人々は豊漁を祈り、ウミガメの頭骨を神としてまつります



15 歴史の記録

3/25(火)-4/20(日)

文久元年

徳川幕府派遣

修好使一行

文久遣欧使節写真

Nadar撮影 江戸時代・文久2年(1862)



(部分)

4/22(火)-6/22(日)

忠臣水滸伝

山東京伝著、北尾重政画

前編：江戸時代・寛政11年(1799)刊
後編：享和元年(1801)刊

徳川宗敬氏寄贈

浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」と中国小説「水滸伝」を組合せた、篤重が出版した読本です

14 特集

キリシタン関係遺品の保存と研究(→3ページ)

3/25(火)-5/18(日)

◎聖母像

(親指のマリア)

イタリア 17世紀
長崎奉行所旧蔵品



日本の伝統模様「虫」(→3ページ)

5/20(火)-7/6(日)

露芝鈴虫文透彫櫛

江戸時代・19世紀
山口清三氏寄贈



18 近代の美術

4/22(火)-7/27(日)



執金剛神立像

竹内久作
明治26年(1893)
シカゴ・コロンブス
世界博覧会事務局寄贈

東京美術学校教授
竹内久は、仏像の修理や模刻を通して自身の創作に取り組みました

3/18(火)-4/20(日)

花下躍鯉

飯島光峨筆 明治7年(1874)



17 保存と修理

繊維と染料で構成される染織品は光に弱く、文化財のなかでも特に保存・展示が困難な素材のひとつです。色鮮やかな染織品を後世へ伝えていくために、当館で行っている修理の事例や、作品への負担が少ない展示方法についてご紹介しています。普段はみえない染織品の裏側を覗いてみませんか。



「染織品の修理と展示」コーナーの様子

ミュージアムショップ

ミュージアムショップでは、当館の出版物をはじめ、収蔵品をもとにデザインしたミュージアムグッズを販売しています。



(左から)

茶地枝垂桜飛鳥模様厚板唐織

ミニ巾着 5,500円(税込)

裂裏名刺入 6,270円(税込)

京都の龍村美術織物による東京国立博物館限定商品。当館が所蔵する能装束をもとにした枝垂れ桜のデザインです。新生活のスタートにぜひどうぞ

特別4室

日本文化のひろば

(体験型展示スペース)

浮世絵版画は色ごとに版をつくり、1枚の紙に摺り重ねた木版画です。篤屋重三郎が世に出した浮世絵師・東洲斎写楽の作品「三代目大谷鬼次の江戸兵衛」のスタンプで、浮世絵を摺り重ねる工程を疑似体験できます。絵が仕上がっていく楽しめとともに、版をずらすに摺る難しさも感じていただけるはずです。



スタンプ体験の様子

19 みどりのライオン

体験コーナー(教育普及スペース)

ハンズオンなどで文化財に親しむ体験コーナーを新たに設置しました。時期ごとにツールを入れ替えるため、さまざまな体験をお楽しみいただけます。ハンズオン体験とともに作品を鑑賞すると、新たな発見があるかもしれません。

※ハンズオンツールはボランティアが19室で活動する時のみ体験できます
※4月からは漆の触察ボードの体験にかわります



ハンズオン体験の様子

いにしえから宝物を 創ってきた人々の想いを、 いまを生きる力にする

持続可能性への取り組みや加速する国際化への対応など、世界中の博物館・美術館は今転機の時を迎えています。当館は館内の機能を強化しながらさまざまな企業・団体と連携し、お客様の声をお伺いしながら、いにしえと未来をつなぐ『共に創る最先端ミュージアム』として成長していくことを目指しています。



館長 藤原誠によるビジョンの発表風景



「みんなが来なくなる博物館」の一環としての、子どもとその保護者向けスペース「あそびば」
(2024年11月8日(金)～12月8日(日))

当館はこれまで文化財を守り、活かし、伝えることで、日本および東洋の文化財の魅力を国内外に広く発信してきました。ここで立ち止まることなく新たな姿を目指すため、「いにしえから宝物を創ってきた人々の想いを、いまを生きる力にする」というビジョン(当館の目標とする姿を明文化したもの)を策定しました。

お客様の好奇心を刺激するコンテンツを制作する「創像力を刺激する博物館」、企業や団体と連携を強化し、お客様の声に耳を傾ける「共に創る博物館」、誰もが安心して楽しめる場としての「みんなが来なくなる博物館」、そして、諸外国との共同研究や世界への日本文化の発信を行う「日本と世界をつなげる博物館」。これらの4本の柱を目指すべき姿とし、経営戦略機能を強化しながら、さまざまな改革にチャレンジしていきます。

このビジョンの発表の場として、2024年11月に当館初となる「TOHAKU GALA」を開催しました。成長し続ける博物館として、皆様と共に歩んでいけたら幸いです。(清原里菜)

東京国立博物館 2038 ビジョンを
体現する
ロゴ(上)と、ビジュアル(下)



東京国立博物館 2038 ビジョン



東博のお仕事

博物館の活動は、展示や催し物、文化財の調査研究や保存、情報アーカイブなど、多岐にわたります。当館の多様な活動に関わる人たちの仕事を、さまざまな角度からご紹介します。

4 保存修復

作品にあわせた修復と保管方法で 文化財を未来へ継承する



さとう もも
保存修復室研究員(染織品保存修復)
子どもたちへの絵本選びや読み聞かせが日々の癒しです。



表装の浮きを止める様子
(装こう担当: 桐原瑛奈)



茶色の絹糸の
剥離止めを行う様子

当館が収蔵する染織品の保存と修復に携わっています。作品の保存状態を確認し、展示のために必要な処置を行い、展示後に作品が置かれる収蔵環境を改善し、次世代に作品を伝えていくことが主な仕事です。

経年劣化や取り扱いにより生じた染織品の皺やほつれは、美観を損ねるだけでなく、繊維の劣化を促す要因となります。9年ぶりの展示となる「錦寿星図軸」は、表装の浮きが著しく、茶色の絹糸の剥離が進行し、巻き皺が生じていました。平置き展示が可能であったため、皺伸ばしや剥離止めなど最小限の処置を装こう担当と協力して実施しました。展示後は太巻き*を作成し、専用の中性紙保存箱に収める予定です。



にしきじゅせい ず じく
錦寿星図軸
清時代・18～19世紀 中国
東洋館5室 3月23日(日)まで

* 作品を巻く径を太くする部材で、収納時の巻き皺緩和となります。 ※本館17室では、当館で行っている修理の事例などを紹介しています。(→9ページ)

ふくすずめ

福雀

太田弥光(朱美)作 平成5年(1993)
高円宮コレクション



ひとりたび

高木喜峰作 平成13年(2001)
高円宮コレクション



2025年3・4・5月号

今号のイチ推し!

ねつけ たか まどの みや 根付 高円宮コレクション

2月26日(水)~5月11日(日) 本館 高円宮コレクション室



エジプト提物

(印籠)エジプトの石棺、(根付)壺、(緒締)スカラベ
アーミン・ミュラー作 平成9年(1997)
高円宮コレクション

愛らしさと遊び心、小さな形に秘めた無限の物語

能や動物、エジプトの石棺など、モチーフも素材も色とりどりの小さな彫刻「現代根付」が、今号の表紙をかざる「イチ推し」です。

根付とは、腰から提げて携行する「提物」(たとえば印籠など)と紐でつなぎ、帯に留めるために用いる留め具です。その実用的な形の制約のなかにあって、人の目をひく魅力的な造形を彫り上げるところに、根付師の創意工夫がみられます。根付を含めた提物を装身具として身に着ける習慣は江戸時代に一般化し、数多くの根付が制作されました。身近な風俗から故事伝説、神霊怪異にいたるまで、多種多様な対象が根付のモチーフとして採用されています。

こうした和装を前提とする「古根付」に対し、「現代根付」は洋装化の進んだ現代に生み出されたものです。帯から提げる習慣とともに需要自体が失われた困難な状況のなかで、根付が生き残るためにはその存在感を示す必要がありました。根付師たちは古根付の技術を継承しつつ、特に1970年代から意識的に現代的な視点をそなえた新しい表現を生み出していきます。そんな現代根付の魅力に惹かれ、旺盛な蒐集・普及活動をはじめられたのが、故・高円宮憲仁親王殿下(1954~

2002)と久子妃殿下でした。

根付の伝統は、「継承されているだけではなく、それが今も生きている芸術である」(山田正義『現代根付』1989、巻頭文)と殿下は述べておられます。方位磁針を頼りに俯く「一人旅」の姿や、「親子猿」の視線の温もりは、現代の鑑賞者に共感をよび起こす表現でありながら伝統の技術に根差しています。可動部を動かすうちに人を驚かせる仕掛けが秘められている作品もあり、「エジプト提物」では石棺のなかからミイラが登場します。こうした仕掛けも古根付から継承された遊び心です。このあたりは、本館10室「浮世絵と衣装」で展示中の古根付と比較すると理解しやすいかもしれません。「高円宮コレクション室」はその隣の部屋になります。本号の表紙が目にとまりましたら、この機にぜひ「高円宮コレクション室」へお越しください。(福島修)

【表紙の作品】

親子猿

藤田寶山作
昭和35年(1960)頃
高円宮コレクション

雛人形

矢部梁生作
昭和63年(1988)
高円宮コレクション

道成寺 鏡向にて

岸一舟作
平成3年(1991)
高円宮コレクション

●開館時間

9時30分～17時00分

毎週金・土曜日、5月4日(日・祝)、5月5日(月・祝)は9時30分～20時00分

黒田記念館は9時30分～17時00分 ※入館は閉館の30分前まで

●3・4・5月の休館日情報

◎3月3日(月)、10日(月)、17日(月)、24日(月)

◎4月7日(月)、14日(月)、21日(月)

◎5月7日(水)、12日(月)、19日(月)、26日(月)

※3月31日(月)、4月28日(月)は臨時開館します。

※特別展、総合文化展(東博コレクション展)、催し物につきましては、今後の諸事情により予告なく変更する場合がございます。最新情報は、当館ウェブサイトなどをご覧ください。

●観覧料金

一般 1,000 円、大学生 500 円

障がい者とその介護者各1名は無料。

満70歳以上、高校生以下および満18歳未満の方は無料。

特別展などの開館日・開館時間、観覧料金は別途ご確認ください。



東京国立博物館
ウェブサイト
<https://www.tnm.jp/>

●賛助会のご案内

東京国立博物館の運営趣旨にご賛同いただける方を対象とした寄附会員制度です。個人と団体向けに、それぞれ寄附金額に応じた特典をご用意しています。

●オフィシャルパートナー協定の締結について

当館は2024年12月27日(金)、日本電信電話株式会社(NTT)とオフィシャルパートナー協定を締結しました。相互に連携・協力し、それぞれの資源や機能の活用を図りながら、最先端のミュージアムへと成長するための取り組みを推進して参ります。

●託児サービスのご案内

正門プラザ内託児室にて、託児サービスを実施しています(有料。事前予約制。開室日などは、当館ウェブサイトをご覧ください)。



●特別展チケットプレゼント

特別展「江戸☆大奥」(→5 ページ)の無料観覧券(10組20名様)をプレゼントします。締切は6月10日(火) 必着。

※プレゼントの応募方法 はがきに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、ならびにこの号で一番おもしろかった記事をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって代えさせていただきます。

〒110-8712 東京都台東区上野公園
13-9 東京国立博物館 広報室「ニュース3-5月号」プレゼント係



もっとワクワク、
もっとトーハク。

お目当ての展示を心ゆくまで堪能したあとの
もうひとつのお楽しみ、館内のショップめぐり。
皆様のお越しをお待ちしています。



本店(本館1階)



東洋館店



正門プラザ店



東京国立博物館ミュージアムショップ
MUSEUM SHOP

オンラインでもお買い物をお楽しみいただけます。
<https://www.tnm-shop.jp/>

トーハク ミュージアムショップ



一般財団法人 東京国立博物館協力会



ホテルオークラレストラン ゆりの木



カフェ ゆりの木

博物館構内で食事・喫茶
をお楽しみいただけます。
ぜひ皆様の憩いの場として
ご利用ください。



ホテルオークラ ガーデンテラス